宗教と素朴な宗教的感情

林 文

A Study of Religious Faith and Religious Feelings

Fumi HAYASHI

In the contemporary world conflicts of different cultures among different nations and regions have become a serious problem. Specifically, religions exist as the basis for different cultures. In our Cross-national survey results, it was found that only 30% of the Japanese have religious faith but 70% think that religious feeling is important and that the meaning of religion is different between the Japanese and Westerners based on our cross-national surveys. The meaning of religion can be understood in the relation between religious attitudes and other social attitudes. The structure of thinking about religion and its relation to other items in our East Asia Value Survey were analyzed using multivariate analysis. The results concerning the differences among these areas were as follows. In Japan, Korea and Hong-Kong, satisfaction about daily life and religious feeling are related positively, whereas in Beijing, Shanghai and Taiwan, these are related negatively. Concerning attitudes toward science and technology, in some areas, including Japan, the medium attitude is related to religious feeling. We are continuing our on-going analysis toward seeking the meaning of religion in contemporary societies by including the results of seven Western nations' surveys.

Key words: religion, East Asia, cross-national comparison, life satisfaction

キーワード: 宗教, 信仰, 東アジア, 日米欧比較, 生活満足度

はじめに

東アジア価値観調査では、「日本人の国民性調査」(統計数理研究所国民性調査委員会, 1961)から発展した国際調査比較方法論としてのCLA(連鎖的比較分析法)(林他, 1991)を念頭に、様々な分野の問題をとりあげて、各国や地域で人々が織り成す社会の文化や価値観の比較を試みている。ここでは、宗教に焦点をあてて分析したものを報告する。

今世界は、「文明の衝突」という言葉に象徴されるように、文明が宗教によって色分けされ、宗教に関する諸問題は現代社会の中でも重要な課題の一つとして注目されている。一部の過激なイスラム教を標榜するテロが清教徒信者の国アメリカ社会に与えた影響は大き

く、人々は否応なく宗教の対立について考えさせられた。一方、人々の幸福感に信仰が影響していることもいわれ、宗教問題の明と暗の両面が浮き上がってくる。

近年、人々の生活の充実の質的な面の重要性がQOL(Quality of Life, 生活の質, 生命の質, 生きがい)として重視され、特に健康に関連するHR(Health-Related) QOLに、WHO(世界保健機構)は霊性(Spirituality)という要素を取り入れるようになっていく(WHO, 1995)。既成の宗教の範疇に留まらず、何か霊的なものに対する精神性を重視する考えともいえる。社会調査によって、それらについて現実の人々の考え方をとらえようとする研究もなされているが、多くは既存の宗教の視点から離れていない。しかし、例えば日本人にとっての宗教は、欧米のキリスト教文化圏やイスラム教文化圏の人々におけるものとは多少とも違った意味をもつに違いない(保坂, 2003)。

宗教とは何かという根本問題はさておき、なにかしら宗教的と思われる感情まで広げて、「日本人の国民性

東洋英和女学院大学

(Toyo Eiwa University)

連絡先: 〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町 32

E-mail: fumih@toyoeiwa.ac.jp

調査」「日米欧七カ国調査」「東アジア価値観調査」から人々の価値観や態度、感情をとらえてみたい。

1. 「日本人の国民性」調査から

「日本人の国民性」調査の 1958 年（第 2 次）調査から「信仰を持っているか」と「宗教的な心は大切か」という 2 つの質問が用いられている。日本では、信仰を持つ人は少ないが、信仰を持っていないことが西欧における無宗教とは対応しないことを実証しようとしたものである。その第 2 次調査の結果、信仰を持っている人は 35% であるが、信仰を持たない 65% の人の中で、「宗教的な心は大切」と考える人が 70% もあり、それらを合わせると 8 割の日本人が宗教や宗教心という言葉に対してポジティブな態度を持っていることが示された。これを西欧のキリスト教社会から見ると、日本人のいう宗教は本当の宗教ではないという見方となろう。ここでは宗教の理論的な定義を論ずることは他書にまかせ、むしろ広い見方での人々の意識調査の結果を分析することにより、日本人の宗教意識を浮き彫りにすることを試みる。

この「日本人の国民性」の研究は、その後、ハワイの日系人研究から国際比較研究に発展した（林他、1973）が、その過程で、日本調査においても質問の形式が変更されている。つまり、1978 年（第 6 次）調査までは、「宗教的な心は大切か」の質問はその前問で「信心・信仰をもっている」（「信仰あり」と略記する）と回答した人には尋ねず、「信心・信仰を持っていない」（「信仰なし」と略記する）と回答した人にだけ質問していたが、1983 年（第 7 次）調査からは、「信心・信仰の有無」と「宗教心の大切さ」を独立して質問するようになった。当初は「信仰あり」の人は当然「宗教的

な心は大切」と思うのは当然という発想であった。この 2 つの質問に対する 1958 年から 2003 年の結果は表 1 に示すとおりである。1983 年から独立して質問された結果から、「信仰あり」のほとんど（93%～94%）が「宗教的な心は大切」と回答し、少なくとも日本では「信仰あり」の回答者は当然「宗教的な心は大切」と思うであろうと想定したことが、大方間違いでなかったことが確認されたといえる。

最近の宗教離れの傾向は、「信仰なし」という回答者の中で「宗教的な心は大切」とする率が、1980 年台に減少したことに現れているように見える。

ここで、宗教と年齢との関係を見ると、「信仰あり」は、若年層では少なく、加齢とともに増える傾向が長年にわたり一貫して見られる。1958 年から 2003 年の変化の様子を図 1 に示す。それぞれの年齢層における「信仰あり」の率は時代とともに減少しているが、変化が大きいのは 40 代から 60 代であり、若い層では低いままそれほど変化していない。なお全体での「信仰あり」の率の変化が小さいのは、サンプルの年齢分布が高い方に動いているためである。

さて、「宗教的な心は大切」という考えの変化を詳しくみよう。信心・信仰を持っているならば 9 割以上（20 歳台でも 8 割）が「宗教的な心は大切」と回答していることは、1983 年調査から 2003 年調査まで同じである。信仰を持たないもののうちで「宗教的な心は大切」と回答する率の年齢層別変化を図 2 に示す。1988 年調査から全体的に減少していることがわかる。その中でも 20 歳台における減少が 30 歳台以上に比して特に大きかったことがわかる。

このように、日本人の宗教離れは、宗教を信じることの減少と同時に、これまで日本人の特徴とされてきた「宗教を信じてはいないが宗教的な心は大切と思う」

表 1. 「信仰あり」と「宗教的な心は大切」の時代変化（%）

調査年	1958	1963	1968	1973	1978	1983	1988	1993	1998	2003
「信仰あり」	35	31	30	25	34	32	31	33	29	30
「信仰あり」の中の宗教的な心大切	—	—	—	—	—	(94)	(93)	(94)	(93)	(94)
「信仰なし」の中の宗教的な心大切	70	77	76	69	74	(73)	(63)	(61)	(58)	(60)
全体の中の宗教的な心大切	(80)	(84)	(83)	(77)	(83)	80	72	72	68	70

*「日本人の国民性調査」（統計数理研究所）による。

* 3 行目と 4 行目の 1983 年以降の（ ）内はクロス集計による。

* 5 行目の 1958 年から 1978 年の（ ）は、「信仰あり」と「宗教的な心大切」の合計。

図1. 年齢層別の「信仰あり」の率の変化 (「日本人の国民性調査」)

図2. 年齢層別「信仰なし」中の「宗教的な心大切」の率の変化 (「日本人の国民性調査」)

という考えが特に20歳台で大きく減少するという形で現れているようである。2003年調査では反転, 増加しているように見えるが, 20歳台は調査回収率が低く, 解釈には注意を要する。

2. 国際比較調査から

国際比較にあたって, 「宗教的な心」の翻訳は単純ではない。十分に検討され, 我々の日米欧七カ国調査(林他, 1998)における英米では「Religious attitude」が用いられ, 東アジア価値観調査のシンガポール英語版では「religious mind」が用いられた。完全に対応した翻

訳ができ難い概念であるという事実が浮き上がってくる。しかし, かといって対応する概念が全く「ない」とはいきれないのではないか。日本人の「宗教的な心」にあたるものが日本以外の国や地域で存在するのか, 存在するとすれば, どのような言葉で捉えることができるのか, ある程度の許容範囲の中で翻訳を通して調査を行い, 他の様々な質問との関連の中から見出していくことが現実的と思える。

図3に, 日米欧七カ国調査(1987-1993)(林他, 1995a, 1995b)と, 東アジア価値観調査(2002-2004)(吉野他, 2003a, 2003b, 2004a, 2004b, 2005)から, それぞれの国・地域の「信仰を持っているか」と「宗教的な心を

図3. 「信仰の有無」と「宗教的な心大切か」との関係

大切と思うか」の項目の回答データの関係性をまとめた。中央より左が宗教を信じる人の比率であり、右は信じていない人の比率である。中心部に近い左の部分は、宗教を信じ宗教的な心を大切と考える人の率である。セカ国調査と東アジアの調査の間で15年ほどの時間差があり、この間の世界的な宗教離れの傾向の影響も多少あろうが、概観や考え方の関連パターンは比較的安定していると想定される。日本の2時点の調査でも信仰を持つ人の率は変化しているが、ともに、信仰を持つもののほとんどが宗教的な心を大切としていることが示されている。前述のように、初期の「日本人の国民性調査」で、信仰を持つ人には宗教的な心を大切と思うかを尋ねていなかったことによる情報ロスはあまりなかったことが確認される。これに比して、ドイツ、イギリス、オランダでは、信仰を持っているのに宗教的な心は大切でないと考える人もあることが読み取れる。

香港は日本と同様で、「信仰あり」の率は低いが「宗教的な心は大切」とする率が高く、両方をあわせると宗教というものに対する肯定的な考えは欧米の国々と同程度といえる。宗教を政治的に統制された中国の北京、上海では「信仰あり」の率は低く、「宗教的な心は大切」という回答を合わせても半数以下である。

「信仰あり」の人のほとんどが「宗教的な心は大切」と回答しているのは、日本と韓国である。中国は少なめである。「信仰なし」の人の中で「宗教的な心は大切」と回答する人の割合も、日本では58%、韓国54%、香港48%、台湾47%、上海34%、北京30%である。「信仰あり」だが「宗教的な心は大切でない」という回答が、ドイツ、オランダ、イギリスで10%以上あり、宗教に対して懐疑的な傾向があるが、東アジアでは最高でも台湾の8%であり、一概に、「信仰あり」と回答するならば「宗教心を大切と思う」傾向は強いといえるようである。

「信仰をもたない」と「宗教的な心は大切でない」とこととの相関は、北京が最もはっきりしている。上海も北京と同様である。図3からは省いてある昆明、杭州も同様であるが、詳細にみると「その他」やD.K.の回答が多く、地方によっては北京ほどに宗教を否定しきれない気持ちがあることを示しているのではないだろうか。中国本土以外では、「信仰なし」という人の中で「宗教的な心は大切」という人の方が「大切でない」という人よりも多いが、香港と台湾は、日本や韓国よりも中国本土に近い傾向がみられるのは、興味深い。政治のみならず、文化の連鎖(Cultural linkage)を示しているのかもしれない。

3. 日常行動・意識からみる宗教の意味

日米欧七カ国調査では、宗教の意味を他の様々な社会的日常的意識の違いから捉えることを試みた。どの国でも「信仰あり」・「なし」の差は社会的日常的態度や価値観との関連からみて同様で、ある国の信仰をもつ人々の価値観を他の国の人々が予測可能であることが示された。しかし、アメリカとドイツにおけるプロテスタントとカトリックに分けた分析によると、態度や価値観が両者間である意味では逆転する（アメリカのプロテスタントとドイツのカトリック、アメリカのカトリックとドイツのプロテスタントが対応）ような傾向も見られた（Hayashi, F & Suzuki, T., 1995）。名目上の宗教が同じであっても、歴史的な背景や社会状況からその意味するところが異なることが、こうした意識調査データの分析から確認されたのであった。

東アジア価値観調査から、日本を中心に、台湾、韓国、中国において、信仰の有無と宗教的な心がどのような意味を持つか、多少宗教と関連のありそうな意識との関連に注目してみた。

図4. 「宗教は一つ」と「宗教的な心は大切」
(東アジア価値観調査)

表2. 「信仰あり」内の選択率から「信仰なし」内の選択率を引いた差

	宗教は一つ	先祖普通より尊ぶ	先祖尊ぶべき	養子につがせる	親孝行	恩返し	権利尊重	自由尊重	臓器移植賛成
日本	6.5	33.0	26.5	6.8	6.5	5.2	-1.4	-11.1	-8.3
韓国	2.9	1.6	6.5	4.6	4.1	4.6	-1.2	-7.3	0.2
台湾	7.3	7.5	8.1	-0.1	5.5	9.5	-10.5	-7.1	-8.5
シンガポール	5.1	14.7	8.0	11.0	7.2	5.4	-7.8	-7.0	-6.0
香港	-3.7	6.5	6.2	4.6	0.8	-1.4	-2.1	3.4	-0.3
上海	2.0	7.1	4.9	-4.0	3.3	9.0	-9.9	-3.2	-7.8
北京	12.3	7.1	14.3	-0.6	4.4	-1.5	-2.8	0.2	-4.6

網掛けは有意差(危険率5%)

表3. 「宗教的な心大切」内の選択率から「宗教的な心大切でない」内の選択率を引いた差

	宗教は一つ	先祖普通より尊ぶ	先祖尊ぶべき	養子につがせる	親孝行	恩返し	権利尊重	自由尊重	臓器移植賛成
日本	9.8	25.8	18.4	3.0	7.2	11.6	-10.0	-8.4	-5.9
韓国	9.2	0.7	2.4	4.5	4.8	-1.1	0.2	-0.2	4.2
台湾	21.7	11.2	20.2	9.4	7.7	-0.4	-6.7	-1.5	-9.4
シンガポール	5.7	16.3	6.9	16.9	6.2	-1.3	-5.4	-2.2	4.4
香港	0.7	0.8	12.7	2.9	-1.7	-3.0	3.9	-0.1	3.8
上海	21.4	-0.4	-2.0	1.8	-1.3	0.2	-2.4	3.8	-5.7
北京	5.9	-2.7	2.0	-3.7	-0.5	-2.1	0.5	2.6	-1.4

網掛けは有意差(危険率5%)

まず、「いろいろな宗教の教えは結局は同じ」という考えに賛成する人の割合が高いのは、台湾 76%、韓国 73%、香港の 61% であり、これは「宗教的な心は大切」と回答する比率の高さとほぼ対応している。日本だけが、「宗教的な心は大切」の率の高さに比べて「宗教の教えは結局は同じ」という考えが少な目であり、「宗教の教え」という考えに懐疑的な人々が多いのかもしれない (図 4)。

次に、「信仰あり」・「なし」間、「宗教的な心は大切」・「大切にない」間の意見差をとらえてみた (表 2, 表 3)。台湾では、「信仰の有無」よりも「宗教的な心を大切と思うか」の方に「宗教の教えは同じ」の考え方の違いが強く現れており、日本、韓国も同様の傾向がある。

表 2 と表 3 には、同じように、他の考え方についての意見差をも示した。差が大きいもの (一応、危険率 5% で有意な差) を網掛けで示した。「信仰あり」・「なし」間の違いも、「宗教的な心は大切」・「大切にない」間の違いも、概して同様の傾向が見られ、北京、上海では「宗教的な心は大切」・「大切にない」間の意識の違いが「宗教は一つ」の考え以外に殆どないこと、有意ではないものの、「臓器移植に賛成」の率、親孝行、恩返し、権利、自由から大切なものを 2 つ選ぶ回答で「権利」をあげる率、「自由」をあげる率が、国・地域によって意見差の方向に違いがあることなど、気にな

る結果である。また、臓器移植に賛成という考えは、「信仰あり」より「なし」の方に多いが、宗教的な心との関連では逆に「宗教的な心は大切」な方に賛成が多い傾向が、韓国、シンガポール、香港で見られるのは興味深い。一方で、「宗教的な心は大切」と他者愛との関係、他方で身体を傷つけることを禁忌 (タブー) とする宗教的教えとの関連を交絡させて考察する必要があらうか。

次に、「先祖を尊ぶ」こととの関連をみたい (注 1)。日本では、「信仰あり」・「なし」間でも、「宗教的な心は大切」・「大切にない」間でも、「先祖を尊ぶ」という考えに大きな差がある。

筆者は、この先祖を尊ぶことと宗教あるいは宗教的な心との相関の傾向は、以前から、日本の特徴なのかアジアの特徴なのかと考えてきた。東アジアの調査結果をみると、日本の他に比較的大きな差がみられたのは、シンガポールと台湾と、北京における信仰あり・なし間であり、それ以外の国・地域は同じような差の傾向はあるもののそれほど大きくない。つまり、宗教との関連は、アジア一般の特徴とはいえないようである。

では、欧米はどうであろうか。図 5 は東アジア価値観調査と日米欧七カ国調査の結果である。先祖を「普通より尊ぶ」「普通」「普通より尊ばない」の回答分布

図 5. 「信仰あり」と「信仰なし」の「先祖を尊ぶか」の回答分布比較

図 6a. 年齢層別「信仰あり」「宗教的な心は大切」
(東アジア価値観調査)

図 6b. 年齢層別「信仰あり」「宗教的な心は大切」
(日米欧七カ国調査)

図 7. 年齢層別「先祖を普通より尊ぶ」

を「信仰あり」・「なし」別に示したものである。両者に開きがあることは先祖を尊ぶことと信仰と関連があるということであるが、西欧は、むしろ東アジアよりも関連があり、このことから、先祖を尊ぶことと信仰が強く結びついているのは、一般アジアの特徴とは言えず、日本の人々の考えの特徴であることが明らかになってきた。

ここで、一般に信仰も先祖を尊ぶことも年齢と相関があると思われるので、その様子を図6、図7に示す。確かに、中でも日本における年齢と信仰や先祖を尊ぶこととの関連は強いが、それだけでは説明できない日本人の宗教に対する考え方の特徴を示しているのではないだろうか。

4. 宗教的な心と満足感

さて、宗教やスピリチュアルなものが人々の生活の満足感に影響を与えているという考え方がWHOでも提起されている（厚生省，1999）ので、東アジア価

値観調査のデータでも分析を試みた。取り上げた質問項目は、宗教は従来の信仰ではなく、素朴な宗教的な関心として「宗教的な心は大切か」、「霊魂」や「死後の世界」が存在すると思うか、生活上の満足感（健康、家庭、生活）、科学文明観ポジティブかネガティブか、などである。これらの回答の関連をパターン分類の数量化（数量化Ⅲ類）で分析した。取り上げた質問と回答選択肢を表4に示す。

それぞれの国・地域毎にパターン分類の数量化による分析の結果をみていくと、回答間の結びつきが大きくわけて3つのタイプに分けられるようである。3つのタイプに該当する、日本と韓国と台湾の結果を図8a, b, cに示した。図中の記号は表4の数字（質問項目カテゴリー）に対応している。

日本は、「満足感」と「宗教的な関心」とが近い関係にあり、科学文明観はポジティブでもネガティブでもない中間意識と宗教的な関心との関係が近い。韓国は、満足感と宗教的な関心とが近い関係にあるのは日本と同様であるが、ネガティブな科学文明観と宗教的な関

表4. パターン分類に用いた質問と回答選択肢
回答選択肢と内容（記号は図8中の記号と対応する質問項目カテゴリー）

先祖	1.1 普通より尊ぶ	1.2 普通より尊ばない	1.3 普通		
霊魂	11b1 存在する	11b2 あるかもしれない	11b3 存在しない		
死後の世界	11c1 存在する	11c2 あるかもしれない	11c3 存在しない		
健康状態	5.1 非常に満足	5.2 満足	5.3 あまり満足していない	5.4 満足していない	
家庭に満足か	13.1 満足	13.2 やや満足	13.3 どちらともいえない	13.4 やや不満	13.5 不満
生活に満足か	14.1 満足	14.2 やや満足	14.3 どちらともいえない	14.4 やや不満	14.5 不満
人の心の解明できる	29b1 全くそのとおり	29b2 そう思う	29b3 そうは思わない	29b4 決してそうは思わない	
経済・社会的問題解決	29c1 全くそのとおり	29c2 そう思う	29c3 そうは思わない	29c4 決してそうは思わない	
火星での生活できる	29d1 全くそのとおり	29d2 そう思う	29d3 そうは思わない	29d4 決してそうは思わない	
宗教的な心	32.1 大切	32.2 大切でない			
親の難しい手術	49b1 全財産なげうつ	49b2 無理しない

図 8a. 宗教的感情, 幸福観, 科学文明観などのパターン分類 (日本)

図 8c. 宗教的感情, 幸福観, 科学文明観などのパターン分類 (台湾)

図 8b. 宗教的感情, 幸福観, 科学文明観などのパターン分類 (韓国)

心との関係が近い。台湾は、宗教的な関心と関連があるのは満足感が低い方とネガティブな科学文明観であり、北京と上海は台湾と比較的似ている。

宗教的な関心と生活満足感との結びつきは、単純にどの国・地域でもみられるものではなさそうである。関連がみられたとしても、宗教的な関心が高いから満足感があるのか、満足だから宗教的なものへも関心を示せるのか、また逆の関係からは、生活に不満なもとなるために宗教的な関心が高くなるということもある

だろう。さらに、分析を深める必要がある。

5. ま と め

人々の意識に関する調査データから、様々な意識との関連の中に日本人にとっての宗教の意味を探ろうと試み、「宗教的な心」という考え方そのものや先祖を尊ぶこととの関連を特徴として捉えてみた。それぞれの国・地域によって、それらの概念の意味が異なることが示唆された。イスラム教の国・地域の調査は科学的な標本抽出調査が今のところ困難であり行っていないが、宗教そのものや宗教的な心の、現実の生活と意識との関連からみられる意味の研究が、異文化間の相互理解につながる鍵と考えている。

本稿は平成 16 年日本分類学会第 21 回研究報告会、平成 17 年 8 月の日本行動計量学会第 33 回大会における発表原稿を加筆修正したものであり、内容の一部は林 (2006) で発表した。

注

- (1) 先祖を尊ぶことについての質問は、日本人の国民性調査でも用いられてきた質問「あなたはどちらかという先祖を尊ぶ方ですか、それとも尊ばない方ですか」を国際比較用に変更した「あなたはどちらかといえば、普通より先祖を尊ぶ方ですか、それとも普通より尊ばない方ですか」としたもの、伝統的価値観の一つとして「先祖を尊ぶ

べき」についてどう思うか、の2つの質問が用いられている。後者では「1. 全くそのとおりだと思う」「2. そう思う」「3. そうは思わない」「4. 決してそうは思わない」の4回答選択肢のうち1と2に9割が集中し、1と2の違いを論じることになり、中間回答傾向の問題と絡み分析し難いので、ここでは前者の「尊ぶか」の質問の回答を主に取り上げた。

参 考 文 献

- 林知己夫編 (1976) 「比較日本人論—日本とハワイの調査から」, 中公新書.
- 林知己夫ほか (1991) 「意識の国際比較方法論の研究—新しい統計的社会調査法の確立とその展開—」, 統計数理研究所研究レポート **71**, 統計数理研究所.
- 林知己夫, 統計数理研究所国民性国際調査委員会 (1998) 「国民性七カ国調査」, 出光書店.
- Hayashi, F. & Suzuki, T. (1995) Data Analytic Representation of Characteristics of Various Breakdowns in Cross-Cultural Survey, "Data Science and Its Applications (Hayashi, C. et al. eds.), Academic Press.
- 林 文 (2004) 日本人の自然観と素朴な感情, 特集「国民性を学際的に見る」, 学際, No. **12**, 32-38.
- 林 文 (2006) 日本人の素朴な宗教的感情, TASC MONTHLY, No. 361, たばこ総合研究センター.
- 保坂幸博 (2003) 「日本の自然崇拜, 西洋のアニミズム」, 新評論.
- 厚生省報道発表資料 (1999) WHO 憲章における「健康」の定義の改正案について, http://www1.mhlw.go.jp/houdou/1103/h0319-1_6.html
- 末綱恕一監修, 統計数理研究所国民性調査委員会 (1961) 「日本人の国民性」, 至誠堂.
- 統計数理研究所国民性調査委員会 (2004) 国民性の研究第 11 次全国調査, 統計数理研究所.
- WHO (1995) The Structure of the WHOQOL-100, <http://www.who.int/evidence/assessment-instruments/qol/ql5.htm>
- 吉野諒三編 (2003a) 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国北京市における意識調査—, 統計数理研究所研究レポート **89**, 統計数理研究所.
- 吉野諒三編 (2003b) 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国上海市における意識調査—, 統計数理研究所研究レポート **90**, 統計数理研究所.
- 吉野諒三編 (2004a) 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析— 2002 年度日本調査報告書, 統計数理研究所研究レポート **90**, 統計数理研究所.
- 吉野諒三編 (2004b) 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析— 2002 年度中国 [北京・上海・香港] 調査報告書, 統計数理研究所研究レポート **91**, 統計数理研究所.
- 吉野諒三編 (2005) 東アジア価値観国際比較調査—「信頼感」の統計科学的解析— 2004 年シンガポール調査報告書, 統計数理研究所研究レポート **92**, 統計数理研究所.

(2005 年 10 月 30 日受付, 2006 年 1 月 30 日最終修正)

付 本文で用いた調査質問文と回答選択肢

(東アジア価値観調査の日本調査による)

問1 あなたはどちらかといえば、先祖を尊ぶほうですか、それとも普通より尊ばない方ですか。

- 1 普通より尊ぶ方 2 普通より尊ばない方
3 普通

問2 子どもがいないときは、血のつながりがない他人の子供を、養子にとって家をつがせた方がよいと思いますか、それとも、つがせる必要はないと思いますか。

- 1 つがせた方がよい 2 つがせる必要はない
3 場合による

問11 次にあげるものをあなたは「ある」または「存在する」と思いますか。それぞれについてお答え下さい。

a. 神や仏

- 1 ある・存在する 2 あるかも知れない
3 ない・存在しない

b. 死後の世界

- 1 ある・存在する 2 あるかも知れない
3 ない・存在しない

問5 あなたと同じ年の人と比べて、あなたの健康状態はいかがですか。

- 1 非常に満足している 2 満足している
3 あまり満足していない 4 満足していない

問13 あなたは自分の家庭に満足していますか、それとも不満がありますか。

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらともいえない
4 やや不満 5 不満

問14 あなたの生活についておききします。ひとくちにいったあなたは今の生活に満足していますか、それとも不満がありますか。

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらともいえない
4 やや不満 5 不満

問23 つぎのうち、大切なことを2つあげてくれといわれたら、どれにしますか。

- a 親孝行、親に対する愛情と尊敬
b 助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する
c 個人の権利を尊重すること
d 個人の自由を尊重すること

問29 つぎに読みあげる事柄についてあなたはどのように思いますか。それぞれについて、この中からお答えください。

b. 科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の中まで解明できる。

- 1 全くそのとおりだと思う 2 そう思う
3 そうは思わない 4 決してそうは思わない

c. 今日、我々が直面している経済的、社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される。

- 1 全くそのとおりだと思う 2 そう思う
3 そうは思わない 4 決してそうは思わない

d. 将来、科学技術の発展により、火星でも、地球と同じような生活ができるようになる。

- 1 全くそのとおりだと思う 2 そう思う
3 そうは思わない 4 決してそうは思わない

問31a 宗教についておききしたいのですが、たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか。

- 1 もっている、信じている
2 もっていない、信じていない、関心がない

問32 それでは、いままでの宗教にかかわりなく、「宗教的な心」というものを、大切だと思いますか、それとも大切だとは思いませんか。

- 1 大切 2 大切でない

問33 宗教について、こんな意見があります。

「宗教にはいろいろあり、それぞれ独自の教えを説いているが、そうした教えは、けっきょくは同じものだ」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか。それとも反対ですか。

- 1 賛成 2 反対

問49a 次のような場面を想像してください。あなたは幼いときに両親と死に別れ、近所に住んでいた田中さんに育てられました。そのおかげで、大学を卒業し、いまでは生活に余裕もできました。ところが、今、恩人の田中さんは病の床にふし、苦しんでいます。本人はしりませんが、医者にはあと3ヶ月の命と聞きました。しかし、特別な手術をすれば苦しみはとれ、回復できる可能性があると聞きました。身よりもなく、経済的余裕もない田中さんを救うためには、あなたの全財産を使わなければなりません。あなたはこうすると思いますか。

b 今の質問では、恩人の場合をききました。もし病気なのがあなたの本当のご両親のどちらかの場合だったらどうしますか。

- 1 全財産をなげうっても、ぜひ手術をしてもらう

2 無理せず、手術はあきらめる

- 問 53 現代の進んだ医療の一つとして、交通事故や病気などで亡くなった方の心臓や肝臓などの臓器を、重い病気で苦しんでいるほかの人に移植することが可能になっています。このような医療について、あなたのお考えは、次のどちらの

意見に近いですか。

- 1 重い病気の人が元気になれるのだからよいことだ
- 2 いくら人の命を救うためとはいえ、亡くなった人の体の一部を取り出すのはよくないことだ